

大谿川に隔てられた山裾の一角にあり橋(三途の川)を渡らなければ行けない
生きながらのあの世の極楽寺



道智上人ゆかりの独結水が湧き出る
水子地藏

まんだら湯
717年、温泉寺の開祖・道智上人が庵を建て
曼陀羅一千日祈願によって湧き出たお湯

夏、桜の木の下に蝉の死骸や大きなクモの巣を発見
ちょっぴり、城崎温泉で昆虫や小動物の死をみつめ、
自らの生と重ねあわせ「城の崎にて」を執筆した
志賀直哉の気分

川面に四季が映る
季節の終わりには桜の花びらや
枯れ葉がゆったりと流れる

城崎郵便局
明治31年に設立された、「温城館」があったところ
城崎温泉で多くの湯治客を集める最初の大眾劇場で
150~200人を収容、花道と回り舞台があり、
芝居や浄瑠璃が演じられた

薬師公園
温泉寺へ

桂小五郎が
宿泊していた
つたや旅館

志賀直哉が
滞在していた三木屋
裏庭を気に入っていた

格子が美しい家 昔、置屋さん
御輿を寄贈し、秋祭りには御輿が
お礼に巡ってくる
昭和20年代までは、家の前まで
御輿がすすむ神道として
白い砂が敷きつめられていた

ヌード
劇場

道しるべ

去来の句碑

赤い欄干

かつて芸妓が芸の練習をした
検番(歌舞練場)

置屋さんが
あったところ

張り出した空間に
設けられた縁台

小桜橋

錦鯉が泳ぐ

橋の先端にライトがとる

野口雨情作詞の
城崎温泉節の碑

車両は一方通行

城崎町伝統工芸品
麦わら細工のお店
素敵なお土産が見つかる
店内の麦わら細工を施した
タンスも素晴らしい

土産物屋や遊技場が建ち並ぶ、湯の里通り
防火用のせき
水が流れ落ちる音が心地よい

道しるべ

桜橋

車両は一方通行

北但大震災に
崩壊しなかった蔵
土台は御影石

一の湯

王橋

至城崎駅前

櫓のモニュメント

時折り合鴨が
ガーガー遊びにやってくる

飲泉場(湯呑み場)

太鼓橋と柳並木が続く

大谿川
この夏鮎が
遡上し話題となった